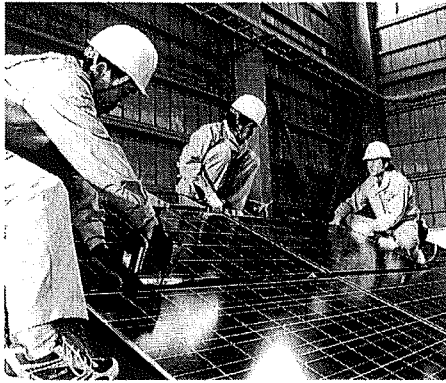


太陽光発電雨漏り注意

太陽光発電のパネルを取り付けようとして、屋根に穴が開いて雨漏りするトラブルが相次いでいる。地球温暖化対策に取り組み政府の後押しでパネルの売れ行きは激増。一方で、取り付け業者の育成が間に合わず、さまざまな工事も横行しているためだ。国土交通省は、パネル設置に検査機関が目を光らす仕組みづくりに乗り出す。

(歌野清一郎)



太陽光パネルの設置研修を受ける受講生。埼玉県川口市の太陽光発電工事専門校の研修所

「設置工事で穴」苦情次々

「太陽光パネルを取り付けたら、部屋で雨漏りするようになった。販売代理店は倒産し、パネルメーカーからは建物には責任を負えないと言われた」。雨漏りするので業者に見てもらったら、屋根の防水シートが破れていた」。欠陥住宅の相談を受ける財団法人・住宅リフォーム・紛争処理支援センターには今年度、太陽光発電に絡む相談が64件寄せられた。昨年度までは太陽光発電に関する相談は、ほとんどなかった。今年度分では施工ミスが原因とみられる

「太陽光発電の費用、設置費用は新築の戸建てで185万円、中古住宅は225万円程度。これに対し、国の補助金と減税で45万円前後、自治体も補助金(地域で異なる)などで約20万円を助成する。電気代は年間約3万5千円節約でき、余った電力を買い取る新制度

「太陽光発電の費用、設置費用は新築の戸建てで185万円、中古住宅は225万円程度。これに対し、国の補助金と減税で45万円前後、自治体も補助金(地域で異なる)などで約20万円を助成する。電気代は年間約3万5千円節約でき、余った電力を買い取る新制度

「太陽光パネルの国内4大メーカーは各社とも施工業者を増やそうと、設置方法の研修を開いている。

「受講者はここ10年で2千人だったのに、今年度だけでも6千人を突破する勢い。フル稼働でも追いつかず、3月までの研修はすでに予約でいっぱい」。三菱電機の担当者

「7月以降は毎月1万台を超えてくるペース。余った電力は従来より割高で電力会社に買い取ってもらえる制度も始まり、家庭でできる温暖化対策として需要は高まりそう。

一方で、リフォームのついでに太陽光発電を導入する例も多い。専門業者だけでなく、工務店や電器店、台所やトイレの設置業者、空調業者といった異業種からの参入が急増している。トラブルが急増している背景には、こうした点が影響している」とみられ、パネルメーカーや電力会社

業界・国研修や点検、改善へ

「工事の質を保つには一定の基準が必要」と指摘する。こうした中、工務店やリフォーム業者約150社は今後の太陽光発電への需要を見込み、専門技術者を育成する太陽光発電工事専門校(本部・東京)を設立。3カ月のカリキュラムで技術者の育成を目指すという。

国土交通省は今春から、悪質工事に備えたりリフォーム保険をスタートさせる。工事の規模

に応じて施工業者が保険料を支払い、建築士の資格を持った保険法人の検査員が欠陥がないかを点検する。リフォームの依頼者は、保険に入った業者を選べば、手抜き工事をされても保険でやり直せる。太陽光パネルの設置工事でも、同省は株主業者が最低限守るべき施工基準を定め、リフォーム保険の適用対象とする考えだ。

住宅リフォーム・紛争処理支援センター(03・3556・5147)では、パネル設置によるトラブルの相談を無料で受け付ける。荻原邦光相談課長は「パネル設置の契約前に、業者のミスで屋根に不具合が生じたら誰の負担で補修するかを確認し、記録しておくことが大事」と話す。